

第1回 十和地域まちづくり推進協議会 会議録要旨

【日 時】 令和3年1月28日（木）午後7時00分～9時00分

【出席者】 森田充浩委員、松下洋平委員、平野まゆみ委員、伊賀守委員、田頭誠志委員、酒井紀子委員、村井洋平委員、菊池祐委員

【行政側】 富田地域振興局長、細川町民生活課長、大元まちづくり推進室長、畦地町民生活課副課長、杉本地域振興課副課長、川下地域振興課係長、井口地域振興課主査

【傍聴人】 なし

【議事及び質疑応答】

○挨拶：富田地域振興局長

○十和地域まちづくり推進協議会の成り立ち、町民参画の既存組織の紹介と本協議会に求める役割等について富田地域振興局長から話あり。

○全員、簡単な自己紹介あり。

(杉本_地域振興課副課長)

まずは会長を決めたいと思う。立候補する人はいないか。

(田頭誠志委員)

会長へ立候補する。

(杉本_地域振興課副課長)

田頭委員から手が上がったが、他に希望者はいないか？いないようであれば田頭委員に会長をお願いしてよろしいか。

※全員、異議なし

それでは前期に引き続き、田頭委員を十和地域まちづくり推進協議会の会長に決定する。

早速だが、会長が決定したのでここから先の会議の進行は会長にお願いする。

(田頭誠志会長)

ご承認いただき感謝申し上げます。また1年間よろしくお願ひしたい。それでは、この会の副会長を決めたいと思うが立候補する人はいないか。

(酒井紀子委員)

自分が立候補するわけではないが、平野まゆみ委員を推薦したい。前期の会長、副会長を決める際に会長が男性なので副会長は女性にしようということで、自分がやらせてもらった。今期は初参加ではあるが、ぜひ平野委員にお願いしたい。

(平野まゆみ委員)

お役に立てるか分からないが、皆さんの総意ということなら…

※全員、異議なし

(田頭誠志会長)

それでは、副会長は平野まゆみ委員がなっただけのことに決定した。よろしくお願ひしたい。それではまず、今回から初めて委員になった方もおいでるので、前期からの振り返りを事務局からお願ひする。

(井口_地域振興課主査)

※委員の手元に配布した資料／これまでの会議内容を踏まえた町の取組について（報告）および本協議会が協議する議題について（検討）を基に説明。

（田頭誠志会長）

はい。今日の会は、今期取り上げる議題を大まかに決めるということでよいか？

（井口_地域振興課主査）

はい。

（田頭誠志会長）

今、事務局から説明があったとおり前期の当協議会からの申し送り事項として、引き続き今期も協議を続けていくものがある一方で、商店街振興に関するテーマなどは地域に必要とされる店の存続に向けた具体策を検討する、と町長への意見書として書ききった部分もある。2つのテーマを、並行して進めていくことも可能だし、まずは委員皆さんの意見を伺いたい。例えば、市街地再生基本構想は役場の内部だけで作ろうとすると、住民の皆さんの想いとかい離してもいけないという部分はある。

（酒井紀子委員）

ここだけの意見だと、もしかしたら視野が狭くなるかもしれない。もっと若い年齢層の方とか、子育て中の母親など、みんなの声を町政に反映させるために、自分たち住民の代表として選ばれたのが町議会議員だと思うが、その議会議員と触れ合ったことが無い人が若年層に特に多い。町に対して色々思う事や、普段考えていることなどをいつものメンバーで集まってあーだこうだ言っても、結局その場だけの愚痴で終わってしまっただけではもったいない。私は、町の政策へコミットできる人と話し合える場が欲しい。また、個人としては文化的施設（図書館機能・美術館機能・展示機能・コミュニティ機能を有する複合型の文化的施設）をテーマのひとつとして取り上げて欲しい。

（田頭誠志会長）

どういった人をこの会へ呼ぶとしても、一問一答形式にしてしまうと「私たちの想いはこうです」と伝えたとしても「ああ、分かりました」で終わってしまい実働に繋がらない。例えばだが、教育民生委員さんに来てもらうとか、議員としての立場よりもより実務者レベルで具体的な内容を話し合える人のほうが良いのではと思うが…ほかの委員の皆さんはどう思うか。

（松下洋平委員）

少し確認をさせてもらいたいが、前期からの続きと、事務局がもっと深掘りして皆さんの意見を聞きたいと思っておられることのどちらに重きを置いて議論を進める？

（田頭誠志会長）

それはこの会の中で、皆さんの意見で決めたら良いと思う。

（松下洋平委員）

では、手始めに小鳩保育所の跡地利用について考えてみるのはどうか？

（村井洋平委員）

前期協議会からの申し送り事項の部分で、青年層が意見を言いやすい環境づくりというものがあるようだが、ありがちなのは結局集まるのはいつものメンバーだね、みたいなこと。本当に何か言いたい人だけがそこに来るということになりかねない。小鳩保育所の跡地利用が、いつものメンバーとそれ以外の人々が交流できるようなスペースになれないか。なぜそう思うかという、そもそも十和地域には、そういう場所がないから。自分も子どもを保育所に預けているが、他の保護者たちが休日にどんなことをして過ごしているのか全く分からない。イメージが湧かないというか…だけど、休日にも連れ合える仲になれたらもっと色んなことに繋がっていくんじゃないかと思う。

（田頭誠志会長）

確たる主宰者がいなくても、集える場。そういうのは大切だと思う。平野委員は福祉の現場で働く

立場から、なにか意見はないか。

(平野まゆみ委員)

自分の好きな事なら集まれるけど、なかなか（それ以外の事となると）集まりにくい、というのが現状かなと。

(伊賀守委員)

現在の小鳩保育所は、車の進入路が狭いというのが課題のひとつではないかと思う。建物はすごく良いと思うけれど。だから、車を使わずにそこへ来れる周辺の人なら構わないが、十和の中でも車が無いとそこへ来るのが困難な人はたくさんいるので、車を使って移動し、集う場所ということで考えるともうちょっと広く駐車場を確保できる、休校になった校舎を活用するとかいうのも有りではないかと思う。

(田頭誠志会長)

おっしゃられたように、現在の小鳩保育所には狭隘な進入路と四万十川が増水した時の浸水のリスクの2つが挙げられる。町として、これらを大規模改修する予定はないことを、前期の協議会でも確認をしている。

(松下洋平委員)

例えば、この日に使いたいですとあらかじめ使用希望日時を予約しておけば、自由に使えるか？

(富田_地域振興局長)

公序良俗に反すること以外なら基本、自由な発想で使い方を決めていったら良いと思うし、この会で具体案が出れば参考にさせていただきたい。

(菊池祐委員)

保育所の周辺住民はどう思っているのか。今まで子どもたちの声が響いていた場所に、例えば若い人たちなど大人がぞろぞろ出入りするようになったら嫌な気分にならないだろうか。その辺は、確認が必ず要と思う。

(田頭誠志会長)

その辺は大変重要と感じる。周辺住民の皆さんにも、保育所跡地がこういう使われ方をされるようになって良かった、と思ってもらいたい。先日、小鳩保育所の園長先生と話す機会があった。実は保育所の方にも、周辺住民からのお声として「子どもの声が離れてしまうのが寂しい」といった意見が多数寄せられていると伺った。

(菊池祐委員)

自分の鍛冶屋の師匠も同じことを言っている。寂しくなると。だからそういう意見を聞いていると、小鳩保育所の跡地利用を考えたとき、なにか子どもに関連するような使われ方がいいなと思う。それは具体的にどんなことかと言われるとまだ出ないが。

(田頭誠志会長)

当協議会が取り上げる今期のテーマのひとつとして、小鳩保育所の跡地利用は良いかもしれない。委員の皆さんから様々なご意見をいただけそうな気もする。それではここで、いったん休憩時間を取る。

～ 休憩 ～

(田頭誠志会長)

再開する。休憩中に、事務局にも確認をさせてもらい市街地再生基本構想のなかで未協議の部分がまだ残っているので、その辺についても委員皆さんからのご意見をいただきたいということだった。今期のまちづくり推進協議会は、今日を除いて残り 3～4 回ほどの開催を予定している。そこで、この未協議部分について各会 30～40 分程度の時間を使って消化していきたいと考えている。昭和

と十川のゾーニングのうち、駅前開発ゾーンは両エリアに共通しているのでここはまとめて協議してもよいと思う。それで、この会議は1回あたり2時間を要する。30～40分間を先述の未協議部分とし、残り時間をここで出されたフリーテーマにするのはどうか。

小鳩保育所の跡地利用、というテーマがさきほどから出ている。十和にはそもそも、多様な人材が交流できる場所が無いという話も出た。そこで、大きな括りとして「集う場づくり」をテーマにするのはどうだろうか。そのなかの一つに、例えば小鳩。他にもいろいろな可能性を持つ場所はあると思う。よろしいだろうか？

(酒井紀子委員)

私はやはり、文化的施設のことを皆で話し合いたい。

(伊賀守委員)

この会は、箱もの（ハード整備）のことだけ話し合う？

(田頭誠志会長)

いえ、ハード整備のことも、ソフト整備のことも両方話し合っ構わない。

(伊賀守委員)

少子高齢化が進み、地域の祭事などにも人が揃わないというのは課題になっている。人を引っ張り出してくることにどこも苦勞している。（そういうテーマも深掘りしてはどうか）

小鳩に関しては、先に保育所周辺の住民らの了解が先にいると感じる。周辺の人々がどう感じているのか、その気持ちを知りたいと思う。

(田頭誠志会長)

どういった跡地利用をするにしても、利用開始前の段階で必ず周辺住民への了解をいただくこと、という町の姿勢は確認している。

(酒井紀子委員)

集える場の候補は、今期の委員発案で何個ぐらい出せるだろうか。

(田頭誠志会長)

最初に場所ありきで考えるというよりは、こういう使い方がしたい、というアイデアを皆で出しておいて、それに適合する場所を探すという手法があっても良いと思う。

(酒井紀子委員)

3年前ぐらいに十和局にそういう場のリストを出してもらったことがある。ああいうのは、また出せるか？

(富田_地域振興局長)

出せる。

(田頭誠志会長)

新しいものを作るだけでなく、人も減っているので今あるものを活かして交流を生みたい。それが大切だと思う。

(酒井紀子委員)

最近目にしたデータで、十和の19集落の人口が掲載されたものがあった。19集落ごとに年齢層の人口があった。そういうデータも参考にしながら、この地区は例えば若年層が割と多いから、こういう使われ方が望まれるのではないか、じゃあ周辺のこういった場所が使えるのではないか、という数字に照らし合わせながらの具体的な議論もできると思うのだがどうだろうか。

(菊池祐委員)

それを大まかに形にしたのが、この市街地再生基本構想のゾーニングの考え方なのでは。

(酒井紀子委員)

でもこれは大雑把なので、もうちょっと細かいのが欲しい。

(松下洋平委員)

僕たち委員がこの場で意見を出しやすくするために、試しに小鳩保育所周辺住民へのアンケートを取って見たらどうだろうか。

(田頭誠志会長)

フィールドワークに行ってみたらどうか（事務局に対し）

(森田充浩委員)

保育所が移転した後、門は閉めて閉鎖するのか？園庭の遊具は？

(細川_町民生活課長)

普段、誰でも入って構いませんとはならないので門は閉めることになると思うが、どんな使い方をするかは今後の協議による。また、園庭の遊具は新しい保育所に持って行くものもあるし、残すものもある。

(森田充浩委員)

うちの子どもが保育所でお世話になっていた頃、遊具のある公園が欲しかった。残った遊具が朽ちていくのはもったいないと思うし、子ども達を遊ばせる場は欲しい。

(田頭誠志会長)

移転したまま、何もせず放置ということにはならない。遊具の点検もいる。今のままだったら自由解放にはならないと思うが、きちんと管理する町の部署が要る。

(富田地域振興局長)

先日、町長ともこいのぼり公園の活用方法について話をした。幼児が遊ぶには安全面のことで様々な危険があることなども話し合った。例えばの話だが、子どもの年齢層が少し高めであれば、バスケットゴールなどをこいのぼり公園に置いて自由に使ってもらい、とかいうのはアリだと思う。逆に年齢層が低い子どもたちなら、小鳩保育所跡地のほうが安全性が高いのでそっちを使ってもらいとか。そういうアイデアもある。

(田頭誠志会長)

どんどん意見を出せば、使える場所、施設を探せるかもしれない。アイデアを出して、行政へ働きかけるのも我々協議会は出来る。というわけで、今協議会が取り上げるテーマのひとつとして、小鳩保育所跡地の活用案も含む「集いの場」はどうだろうか？ちなみにさきほど、文化的施設のことが酒井委員から意見があった。このことについて酒井委員、提案した趣旨を簡潔に説明願いたい。

(酒井紀子委員)

自分は3年前に、文化的施設検討委員会の委員になった。この文化的施設は窪川地域に建てられることになっている。一方で、十和地域には図書館が無い。そのまま本当に良いのか。子どもにも大人にも、視野の広がる世界が欲しい。施設がここに欲しいと言っている訳じゃなくて、サービス内容のことについてもっと話し合いたい。十和には遊休施設も色々ある。住民同士でそういうことについて話し合った内容を、声として町に届けたい。

(大元_まちづくり推進室長)

単なる図書館、美術館というだけでなくコミュニティ機能をもたせた施設として窪川地域に建てようとしている。当初、教育委員会部局という話でいっていたが、最近ではコミュニティ機能の話が出てきたので町のにぎわい（活性化）に繋がるのなら町長部局が持つべきではないかという議論もあり、今後町長部局で運営していこうとしている。そういった意味から言うと、コミュニティ機能についてここで議論することはまちづくり推進協議会の趣旨とも合致していると思う。

(松下洋平委員)

そういうことなら、十和のコミュニティ機能を考えるという意味で例えば駅前開発ゾーンにも踏み込めるだろうか。昭和駅の観光案内所に本を置いてみるとかいうのもあり？一緒に話ができそうだと感じるが…

(村井洋平委員)

図書館でも美術館でもないコミュニティの場とは？

(酒井紀子委員)

個人的に、図書館の話をするとき教育という視点は絶対に欠かせないと思っている。だから、町としてはコミュニティ機能とか町ににぎわいを…って議論のほうが進めやすいにしても、自分としては何だかしっくりきていない。

(大元_まちづくり推進室長)

あくまで複合施設だから、町民皆さんの課題解決の場にもしていきたいという考え方になっている。令和5年にはオープンのような感じで動いている。

(村井洋平委員)

例えば、物づくりのスペースは設けられるのだろうか？また、課題解決とは？

(大元_まちづくり推進室長)

同じようなことをしている人に助けをもらおうとか、あるいは全く別分野の方から、その場集っていたことをきっかけに新しいアイデア、視点、繋がりが生まれることもあると思う。それと、自分が日頃困っているちょっとした課題を解決できるサポートが得られる場所を目指している。

(村井洋平委員)

そのコーディネーターは居るのか？

(大元_まちづくり推進室長)

そう。行政もサポートする。

(田頭誠志会長)

皆さん高知市のオーテピアに行ったことがあるだろうか。かつて図書館というのは、一人で静かに本を読む場所だった。でもオーテピアは、ただそれだけじゃない機能がたくさんある。多人数で使えるスペースもある、ディスカッションもできる。コミュニティスペースとしては有効なんじゃないかと感じている。クリエイティブな何かができる場所。それがこれからの図書館に求められる機能のひとつだと思う。

(富田地域振興局長)

ちょっとここで一旦整理させていただきたいが、大きな話をしていきながら、十和のことも話したい？なかなかのボリュームになりそうだが…

(酒井紀子委員)

あっちの話(窪川の文化的施設)の情報なしでは、ここだけの話も厳しいのかなと思う。

(田頭誠志会長)

2/10にこの局2Fホールにて文化的施設に関する住民説明会も開催されるようなので、興味のある人はぜひ参加を。それで、このテーマを我々の協議会で取り上げて良いか？

今日の確認として、今後3~4回の会で、①未協議だった市街地再生基本構想の深掘り、②「集う場づくり」と「文化的施設」について。まずは「集う場づくり」から取り上げたらどうかと思うがいかがか。

(大元_まちづくり推進室長)

自分から1点確認として。市街地再生基本構想の計画づくりだが仕上がりはいつ頃になりそうか。

(富田地域振興局長)

令和3年度の中旬以降にはどうしてもなると思う。現段階で、補助金の絡みはないので大至急作る必要はないが、もし今後そういう動きがでてきそうなら事務局としてもスピードアップを図りたいが、現状ではそういう見通しでいる。

(田頭誠志会長)

はい。それでは、他に委員さんからのご意見等なければ今日はこれで終わりにする。また次回、よろしくお願ひしたい。

— 終 了 —